

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---|---------|-------------|
| 事業所番号 | 4070702602 | | |
| 法人名 | 有限会社 星の里 | | |
| 事業所名 | グループホーム 星ヶ丘 | | |
| 所在地 | 〒807-1264 福岡県北九州市八幡西区星ヶ丘3丁目5番21号 093-617-4808 | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年10月01日 | 評価結果確定日 | 平成27年12月26日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

関係者すべてに支えられながら今年で開設11年目のグループホームです。民家改造型のグループホームなので本当に家にいるような環境で生活していただけるような環境づくりを心掛けています。『家族と思い、思われる関係づくり』をメインの理念に掲げ、入居者さんが穏やかに生活していただける雰囲気づくりに努めています。7名定員という少人数の利点を最大限に活かし、一人ひとりにしっかりと寄り添った介護を実践しています。また外出支援にも力を入れており、入居者さんに変え喜ばれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「星ヶ丘」は、八幡西区郊外の大型住宅団地の一角に、民家改造の1ユニット(定員7名)のグループホームである。小規模の利点を活かした家庭的で温かい雰囲気は、利用者や家族、来訪者の気持ちを和ませ、調理上手な職員が作る愛情たっぷりの料理を、利用者全員が完食し、健康の源になっている。午前中は、利用者と職員と一緒に下肢筋力のリハビリや手芸、作品作りに熱中し、手先を使いながら談笑する様子は、利用者の昔に帰った様で、元気で明るい様子を見守る家族からは、感謝と喜びに包まれ、ホームと深い信頼関係が構築されている。利用者と職員は、地域の一員として行事や活動に参加し、ホームの敬老会には、家族や地域のボランティアが参加し、地域交流の輪が広がっている。また、地域で育てられたホームとして、地域社会に貢献し、地域福祉の拠点を目指すグループホーム「星ヶ丘」である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会 | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 093-582-0294 | | |
| 訪問調査日 | 平成27年12月14日 | | |

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 | 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 |
|----|--|----|---|
| 58 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27) | 65 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21) |
| 59 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40) | 66 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22) |
| 60 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | 67 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 61 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39) | 68 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) |
| 62 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | 69 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 63 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33) | 70 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 64 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30) | | |

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|-----------------|----|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | |
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 1.私たちスタッフは、ここに入居された方みなさまを家族と思い、家族と思われるよう努めます。2.私たちスタッフはここに入居された方みなさまの暮らしを支える関係者すべてにとっての道しるべとなり、困った時の方針を示していけるよう努めます。3.私たちスタッフは入居された方みなさまの自己選択・自己決定を尊重し、地域の中で自律した生活を支援することに努めます。という3つの基本理念の実現に向けて日々研鑽している。 | ホームが目指す介護サービスのあり方を示した3つの基本理念を掲示し、職員一人ひとりが理念の意義を理解し、定員7名の少人数で、家庭的な雰囲気の中で生活出来る利点を生かし、一日一日を大切に暮らせる支援に取り組んでいる。また、認知症介護には人的環境が大きく影響すると考え、職員は、「家族と思い、思われる」関係を目指し、日々取り組んでいる。 | |
| 2 | 2 | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に加入し、こども110番の家に登録している。また市民センターでの「ふれあい昼食会」にも毎月参加し、地域の中での生活を支援している。 | 代表の実家を改築し、地域の中で育った関係で、開設時から地域の方の協力体制が整っている。地域の行事や、毎月の「ふれあい昼食会」への参加、子ども110番への登録、シニアボランティアの受け入れ、近隣住民との日常的な声の掛け合い等、地域の一員としての交流がある。 | |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 代表者が認知症介護指導者として活動しており、認知症ケアの啓発活動を行っている。 | | |
| 4 | 3 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 外部評価や実地指導があった場合は会議において報告を行っている。 | 利用者、家族、自治区会長、民生委員、地域包括支援センター職員参加の下、2ヶ月毎に開催している。外出時の写真を示しながら報告を行い、参加委員それぞれの立場からの情報提供を受け、出された意見、情報をサービスの向上に活かしている。 | 開設12年目を迎え、参加メンバーも固定してきているため、他事業所管理者との相互参加や市民センター館長、提携医等にアドバイザーとして参加をお願いする等、運営推進会議の活用に向けた積極的な取り組みを期待したい。 |
| 5 | 4 | 市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 地域のグル - プホームの空き状況を提供している。 | 管理者は、疑問点や空き状況等を行政に相談し、アドバイスを情報提供を受け、連携を図っている。グループホーム連絡協議会や指導者研修の中で、意見交換したり、社協で認知症の話をする等、地域密着型事業所として出来る事に積極的に取り組み、協力関係を築いている。 | 管理者を始めとする、ホームの認知症に関するノウハウを活かし、介護相談事業や認知症カフェ、行方不明者捜索模擬訓練等、行政と協働した取り組みを期待したい。 |
| 6 | 5 | 身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束ゼロを実践し、研修も行っている。 | 研修会を通して、身体拘束について学ぶ機会を設け、言葉や薬の抑制を含めた拘束が、利用者にも与える影響について理解している。職員間で、具体的な禁止行為の事例を話し合い、身体拘束のない介護サービスに取り組んでいる。 | |
| 7 | | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待に対して正しい知識を持つよう研修を実施している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | 6 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護サービスを利用している入居者がおり、研修も実施している。 | 以前、制度を活用している利用者がおられたことから、実際のやり取りを通じて、制度への理解を深める事が出来ている。管理者は、内部の資料に補足して資料を作り、必要時には、制度の内容や申請手続きについて説明し、申請期間に橋渡し出来る支援体制を整えている。 | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約書・重要事項説明書を文書と口頭による十分な説明を行っている。 | | |
| 10 | 7 | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 要望や苦情がある場合の窓口をスタッフにする事で、いつホームに来てでも対応できるよう体制づくりをしている。また直接言えない場合も踏まえて公的の窓口を掲示している。 | 職員は、日常の関わりの中で、利用者の思いや意向を聴き取っている。家族の面会時や電話等で、「何かあったら言って下さい」と、常に声を掛け、家族からの意見や要望、心配な事等を聴き取り、介護計画やホーム運営に反映させている。 | 健康状態の報告と写真を添えて、毎月の請求書を送付しているが、ホーム全体の取り組みや利用者の暮らしぶりを伝えるためのホーム便りの作成を期待したい。 |
| 11 | 8 | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 経営者が管理者と介護職員を兼務して業務に当たっており、風通しのいい職場づくりに務めている。 | 必要時に、2、3ヶ月に1回、勉強会兼ミーティングという形で全体ミーティングを実施している。管理者が夜勤に入る事が多いため、申し送りの時に、職員とじっくり話す事が可能で、日常的に、職員の意見や提案を聞いて、運営に反映させている。 | |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 勤続年数や雇用体制に合わせた給与を設定し、手当を支給している。また日頃からスタッフとのコミュニケーションを図っている。 | | |
| 13 | 9 | 人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | ハローワークでの職員募集を行っている。子育て応援求人やトライアル雇用の制度を利用している。 | 職員の募集は、ハローワークを通じて、子育て支援やトライアル雇用の制度を利用し、年齢や性別、資格等の制限はない。採用後は、外部研修への参加や資格取得を奨励し、職員が向上心を持って働けるよう支援している。また、管理者である代表は、共に業務に入りながら、職員にストレスを与えない事を心掛け、職員がゆとりを持って働けるよう配慮し、職員の定着に繋げている。 | |
| 14 | 10 | 人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 倫理マニュアルを作成し、職員への研修も行っている。 | ホーム独自の倫理マニュアルを作成し、利用者の人権を守る介護のあり方について、研修で学び、確認する機会を設けている。特に、言葉遣いや対応に注意し、利用者がホームの中で安心して暮らせる環境を整え、利用者の尊厳や権利が守られた介護サービスの実践に取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|----|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | OJTだけでなく、グループホーム協議会の研修に積極的に参加するよう務めている。 | | |
| 16 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム協議会での研修や、地域の事業者連絡会の交流会に参加を通じて、外部との交流を図っている。 | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | センター方式のシートを導入し、入居されるまでの生活歴などをケアに活かせるよう務めている。 | | |
| 18 | | 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | センター方式のシートを導入し、入居されるまでの生活歴などをケアに活かせるよう務めている。 | | |
| 19 | | 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談があった方に対して、ご本人や家族の要望に沿って、他のサービス事業者を紹介したりしている。 | | |
| 20 | | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者それぞれの出来る事を少しでも手伝ってもらい、役割を持った生活を支援している。 | | |
| 21 | | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居者それぞれの出来る事を少しでも手伝ってもらい、役割を持った生活を支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | 11 | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 部屋にご家族の写真を飾ってもらったり、着慣れた洋服を持って来てもらったりしている。 | 全員八幡西区内からの利用者で、家族の面会も多く、家族の協力を得て、自宅に帰宅することを支援している。近隣のスーパーに買い物に行く時には、「買い物と一緒にいこう」と利用者を誘い、利用者の日常生活が孤立する事なく、馴染みの場所や大切な人との関わりを感じながら暮らせるよう努めている。 | |
| 23 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 少人数の利点を活かし、一人ひとりにきめ細やかな支援を行うよう務めている。 | | |
| 24 | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去されてからも病院へのお見舞いや、施設への面会を行っている。 | | |
| ・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | 12 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 認知症介護指導者として『利用者本位』の実践に務めている。 | 職員は、日常会話の中から、利用者の思いや意向を聞き取り、職員全員で情報を共有し、日々の介護に活かしている。利用者の重度化が進み、言葉を発せられなくても、家族に相談したり、利用者の表情から思いを拾い上げ、汲み取る努力をしている。 | |
| 26 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | センター方式のシートを導入し、入居されるまでの生活歴などをケアに活かせるよう務めている。 | | |
| 27 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ケアチェック表や経過記録を使い、入居者の小さな変化にも気付けるよう務めている。 | | |
| 28 | 13 | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | モニタリングシートを活用し、それぞれに合った支援が出来るよう務めている。 | 介護計画は、利用者や家族の希望を聴いて、職員の気づきや意見を盛り込み、いかにホームで穏やかに暮らす事が出来るかに重きを置いて、利用者中心の介護計画を定期的に作成している。利用者の状態変化に合わせ、家族や主治医と話し合い、介護計画の見直しを、その都度行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケアチェック表や経過記録を使い、入居者の小さな変化にも気付けるよう務めている。 | | |
| 30 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 何事も本人の意向を反映し、強制をしないよう支援している。 | | |
| 31 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 市民センターの行事への参加、近隣への買い物を通して、地域資源を有効に活用している。 | | |
| 32 | 14 | かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ドクターとの情報交換を積極的に行い、入居者本人・ご家族の意見を反映するよう務めている。 | ホーム提携医による毎週の往診は、10年継続しており、何かあった時にはすぐに対応してもらえる、24時間安心の医療体制が整っている。入居前からのかかりつけ医や他科受診は家族にお願いし、報告を受け、情報の共有に努めている。 | |
| 33 | | 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | ケアチェック表・経過記録と看護記録を合わせて、本人の状態や受診についての相談を行っている。 | | |
| 34 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院との情報交換を密にし、本人の状態に合った処遇が確保できるよう務めている。 | | |
| 35 | 15 | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 『看取りの指針』を定めている。 | ターミナルケアについて、利用者や家族と話し合い、希望を契約時に聴き取っている。現在の所、最終的に病院への入院を希望される方が多いが、利用者の重度化に伴い、家族、主治医と密に話し合い、今後の看取り方針を確認し、職員全員で方針を共有し、その時その時に必要な対応を考えながら、利用者が出来るだけ長くホームで暮らせるように支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時の対応マニュアルを作成し、緊急連絡網をわかりやすい場所に掲示している。 | | |
| 37 | 16 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 非常災害時マニュアルを作成しスタッフへの周知を図っている。 | 風水害、地震、火事対策のマニュアルを作り替え、職員への周知を図っている。5月に昼間、8月に夜間想定の実践を実施し、消防署の参加もあり、指導を受けている。運営推進会議時に訓練を行う等、地域の方の参加も得られている。非常災害時に備え、飲料水、ゼリー等を用意している。 | |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | 17 | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | お互いが家族と思えるような声掛けを行っている。 | 目上の方、人生の先輩として利用者を敬い、声掛けについても、愛があるかを重要と考え、利用者一人ひとりに合わせた声掛けや対応を心掛けている。また、個人情報の取り扱いや職員の守秘義務についても、契約書を交わすだけでなく、職員一人ひとりが自覚を持って取り組んでいる。 | |
| 39 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている | 日頃の会話を通して、本人の思いや希望を把握するように努めている。 | | |
| 40 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | スタッフには常に「業務優先」にならないよう指導を徹底している。 | | |
| 41 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 季節に合った服をスタッフと共に行い、整容も毎日行っている。 | | |
| 42 | 18 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 食器拭きや下膳、テーブル拭きなど出来る方をお願いするようにしている。 | 利用者の残存能力に合わせ、テーブル拭きや下膳、食器拭き等を手伝ってもらっている。「カレーが食べたい」という、利用者のリクエストに応え、調理上手な職員が、畑で採れた野菜を使って、野菜たっぷりのスープカレーを作り、利用者は全員美味しく完食している。利用者の嗜好に配慮し、食事が楽しく出来るよう支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 本人の摂取量に合わせて食事量を調整している。 | | |
| 44 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎週の訪問歯科と、毎食後の口腔ケアを行っている。 | | |
| 45 | 19 | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | それぞれの排泄パターンを把握し、必要に応じてトイレ誘導を支援している。 | 昼間活動して、夜間は熟睡してもらう事を大事にしている。高齢に伴い、下肢筋力を鍛えるため、体操や生活リハビリに積極的に取り組んでいる。職員は、利用者の排泄パターンを把握し、早めの声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄や、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。また、オムツからリハパンに改善する等、家族の負担軽減にも努めている。 | |
| 46 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 牛乳を提供したり、運動を行ってもらうよう支援している。 | | |
| 47 | 20 | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 週2～3回の入浴を行い、本人に合わせてゆっくり入浴しているよう務めている。 | 入浴は利用者の希望を聞きながら平均週2、3回を基本として入ってもらっている。少人数のため利用者のペースで、ゆっくりと入って貰っている。また、入浴を拒む利用者には、時間をずらしたり、職員が交代してタイミングを見ながら声掛けし、無理強いせず清拭や足浴に変更して、入浴が利用者の負担にならないように配慮している。 | |
| 48 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 就寝時間を決めず、本人が休みたい時に就寝できるよう支援している。 | | |
| 49 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 「薬の説明書」をいつでも見れる場所に置き、薬の変更時には口頭と文書での申し送りを徹底している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 少人数の利点を活かし、一人ひとりにきめ細やかな支援を行うよう務めている。 | | |
| 51 | 21 | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 外出支援を積極的に行うとともに、ホーム前のベンチを有効に利用し、日光に当たる時間を設けている。 | 外出支援には力を入れている。日課の散歩の他に、近所のスーパーへの買い物に出かけたり、市民センターで行われるふれあい昼食会、祭り等に参加している。また、季節の花見やおやつ外出等、利用者の生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。 | |
| 52 | | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現金の管理は行っていない。 | | |
| 53 | | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙は自由に出してもらっているが、電話は事務所にしかない為、スタッフに声を掛けて使用してもらおう願っている。 | | |
| 54 | 22 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 民家改造型利点を活かして、安心感を与えられる空間を提供している。 | 民家を改築したホームは、人と人の距離が近く、「家族と思い、思われる」利用者職員が共に暮らす温かな雰囲気の家である。対面式の台所で昼食の準備をする音や匂いを五感で感じながら、童謡を口ずさみ、テーブルの上に広げられた洗濯物をたたむ利用者の姿が見られ、季節感、生活感を感じながら暮らせるよう工夫している。 | |
| 55 | | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 民家改造型利点を活かして、安心感を与えられる空間を提供している。 | | |
| 56 | 23 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた物や写真を持ち込んでもらえるようご家族に声を掛けている。 | 民家改造型であるので、少しずつ居室の仕様が異なる。利用者の使い慣れた家具や寝具、仏壇やパソコン、暮の道具等、大切な物を持ち込んでもらい、その方らしい居室となっている。また、室内は清掃が行き届き、利用者が気持ち良く過ごせるよう支援している。 | |
| 57 | | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人ひとりに合った支援を行っている。 | | |